



# あいざわ けいいちろう 圭一郎

地域だよりの

Vol.31 H.30.04.01

## 42歳 走り続ける情熱男！

◆新年度が始まりました。市民の皆様方におかれましては、心新たな決意の下、希望を胸にご活躍されていることとお喜び申し上げます。三郷市議会におきましては、3月定例会(3月1日～23日)が開催され、平成30年度一般会計・特別会計予算等を審議し可決成立致しました。一般会計は、461億円となり当初予算として過去最大の規模となり、11年連続で前年度を上回るものとなりました。

◆平昌オリンピック・パラリンピックでは、日本は冬季オリンピック史上最多の13個のメダルを獲得、パラリンピックにおいては10個のメダルを獲得し、日本中が歓喜の渦に包まれました。惜しくもメダルに届かなかった選手、日頃の練習の成果を出し切れなかった選手もいらっしたのかとは思いますが、日本選手団はフェアプレーというスポーツマンとして、オリンピックとして欠かせない精神をしっかりと持ち、戦っていた姿は見ていた私たちに清々さと感動を与えてくれました。

◆2年後の夏にはいよいよ2020東京オリンピック・パラリンピックが行われます。開催国の一員としておもてなしの精神を育むと共に、現在進められておりますが、ギリシャ選手団のホストタウンとして相互交流を図りながら、開催都市の近隣自治体としても出来るだけの支援、協力をし、大会の成功に繋がりたいと感じているところです。今年度から三郷市としても、オリンピック関連事業が展開されていきますのでご期待ください。

### 平成30年度予算の主な新規・継続事業

- 陸上競技場運営管理事業 6,600万円  
日本陸上競技連盟公認陸上競技場の各種管理運営業務を委託する。陸上競技場の名称は「セナリオハウスフィールド三郷」に決定しました。6月3日のオープンとなります。
- 三郷料金所スマートインターチェンジ機能拡充整備・道路改良及び地域拠点基盤整備事業 1億5,000万円  
三郷料金所スマートインターチェンジを大型車対応とするための用地取得、道路工事、フルインター化に向けての予備設計
- みさと団地多世代交流複合施設検討事業 1,000万円  
みさと団地内及びその周辺にある公共施設の再編に向け、北児童館・北公民館・立花保育所跡地における多世代交流複合施設について設置検討を行う。なお、北公民館・北児童館については、今年度中に瑞沼市民センターに仮移転する予定です。
- ホスタウン推進事業 2,800万円  
ホスタウン登録自治体として、機運醸成のためのイベントの開催、オリンピック大会トーチの展示、日本とギリシャのアスリート・パラアスリートによる講演、ギリシャ選手団の誘致活動等を展開する。
- 保育施設長寿命化事業 1億2,800万円  
施設の長寿命化を図るため、公立保育所の施設改修を実施する。  
工事:さくら・彦成保育所 設計:丹後・早稲田保育所
- 子育て支援ステーション事業 1,300万円  
出産から就学に至るまでの子育てについての各種相談に対して、継続支援できるシステムを構築する。
- 体育館施設整備事業 2億3,200万円  
総合体育館の外壁、メインアリーナ・サブアリーナのフロア、エントランスの空調、非構造部材の耐震化等の大規模改修を行う。

◆市政運営について

●木津市長が就任されてから 11 年余「きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれるまち～」を標榜し、まちづくりを進めてこられました。就任後初となる平成 19 年度の予算規模は 306 億 3 千万円、同 4 月 1 日の人口規模は 52,075 世帯 130,563 人でしたが、本定例会で審議されました、平成 30 年度当初予算においては 461 億円と 11 年連続で前年を上回るものとなり、人口についても 3 月 1 日現在で、62,433 世帯 140,218 人と約 1 万人の人口増加となっております。

●三郷中央地区やインター A 地区、新三郷駅前開発等、歴代首長や議会の諸先輩方などが種をまかれたものもございしますが、水をやり、肥料をまき、時に耕しながら着実に花を咲かせてこられました。ご自身でも、率先した企業誘致を進めるべくインター南部地区の開発を手掛けられ、現在はインター南部南地区が進められているところです。また、少子高齢時代を背景とした中で自治体間競争が激化しております。選ばれるまちづくりとなるよう、様々な施策について着実に推進されてきたことから、今後も安定した市政運営を望まれている方も多くいらっしゃると思います。

●一方で、首長の多選自粛というキーワードにおいては、一般論としてですが、首長の持つ人事権、事業の発注権、許認可権など強大な権限が特定の人物に固定化されることで独裁化が進み、行政組織の硬直化、人事の停滞や士気低下、癒着による腐敗政治に繋がるといったことが挙げられます。近年、埼玉県知事選や茨城県知事選でも争点となりましたが、それぞれ相対する結果となりましたが、そういった意見があるということは認識をしなければならないことかと存じます。

●しかしながら、現在本市においては大きな事業が残されております。5 年という目標値を掲げた仮称三郷流山橋、常磐自動車道三郷料金所スマートインターチェンジの大型化、フルインター化、南部地域の拠点整備、北公民館・北児童館等、北部拠点の再整備、彦糸・彦音・彦成地区の土地区画整理事業等、国や県が係わらなければ実現できない事業について、青写真の状況でどなたかにパトタッチするということではなく、実現に向け今後の 4 年間のかじ取りをしっかりと果たして頂きたいそう考えます。引き続き市政運営を担うことについて市長のお考えをお聞かせください。

市長答弁

私は、平成 18 年 11 月の市長就任以来、市民感覚と経営感覚を大切に行政運営を行ってきた。新年度予算において歳入における市税の割合が 46.2%になったことも自治体経営の成果の一つと認識している。永年の夢であった三郷流山橋の架橋、スマートインターの大型化・フルインター化については国県への働きかけがようやく実を結び青写真が描けるまでになった。まさに仕上げの時期が来たと認識している。まちづくりは道路づくりであり、ひとつづくり、市民の幸せづくりでなければならない。多選についてのご意見は重く受け止めながらも、一朝一夕には築くことのできない人脈・経験・ネットワークという優位性を最大限に発揮し、今後もしっかりと市政のかじ取りを行いたいと考えている。

◆一般介護予防事業について

●介護予防とは、介護が必要になることを出来るだけ遅くさせ、介護されるようになってからは、その状態を維持または悪化させないようにするといった介護保険制度の基本理念でもあります。少子高齢時代の真只中で、どの世代からも求められていることは、高齢者の方々が元気で過ごして頂くこと、健康寿命を延ばして頂くことであり、そのためのあらゆる施策を展開していかなければならないと感じているところです。本質問では、介護の入り口よりもさらに前の段階から予防を行い、高齢者の健康と暮らしの向上を目指そうとする一般介護予防事業について提案をさせて頂きたいと思っております。

●本年 1 月に、介護予防教室「動いて学んでいきいきライフ」に参加させて頂きました。この事業は、歯科医師会、薬剤師会、接骨師会、栄養士会が共同で行っているもので、それぞれ専門の立場から介護予防、健康長寿に繋げるべく指導をされているものです。

●歯科医師会では、かむ力の重要性を解きながら、誤嚥性肺炎や口腔乾燥症の予防に繋げるべく、頬の運動、顔の運動、唾液腺マッサージ、舌のストレッチ等を行ないました。薬剤師会では、副作用を起こさない安全で有効な飲み方や、飲み忘れの薬の利用方法、ジェネリック薬の推進等、より健康を維持するための視点と医療費削減の視点からも丁寧に説明をされていました。栄養士会では、老化を遅らせる視点からの食生活、高齢の方が寝たきり予防に繋がる食生活、日頃から行える栄養状態のチェック、意識して食べた方がよいもの等、低栄養予防の観点から指導をされました。接骨師会では多くの高齢者の方々が気軽に無理なく行える効果的なストレッチや体操を行いました。

●それぞれの専門家から介護予防・健康長寿に重要なことを的確に伝えられる非常に効果的な素晴らしい事業だと認識した所です。是非、多くの対象者の方々に参加して頂くように展開していくことが必要ではないでしょうか。

●この他に、本市で手掛けている一般介護予防事業は、閉じこもりを防止することを目的に、軽い運動や趣味などを行う地区サロン、体力の維持や認知症の予防のための運動を行う、健康アップ教室、プールでウォーキング、シルバー元気塾ゆうゆうコースが行われております。また、高齢者の生きがいづくり・健康維持を目的にシルバー元気塾が行われております。それぞれ市内各所で相当数の方々が参加されております。こういった事業と今申し上げました介護予防教室「動いて学んでいきいきライフ」を抱き合わせて実施することで、相乗効果も期待できるのではないのでしょうか。高齢者の方々の健康長寿と、医療と介護に係る費用の削減の観点からお考えをお聞かせください。

市民生活部長・福祉部長答弁

「動いて学んでいきいきライフ」をほかの事業との抱き合わせで行うことについては、健康アップ教室、地区サロン等の委託者の意向を確認するとともに、歯科医師会などと協議しながら検討していく。また、シルバー元気塾の特別講座の一部を利用しての介護予防事業を実施することについては検討可能と考えている。